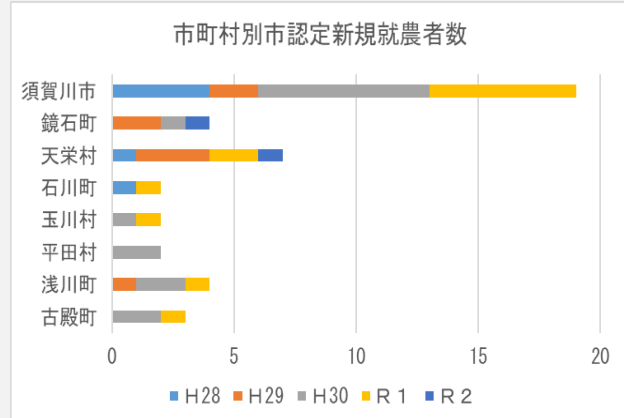
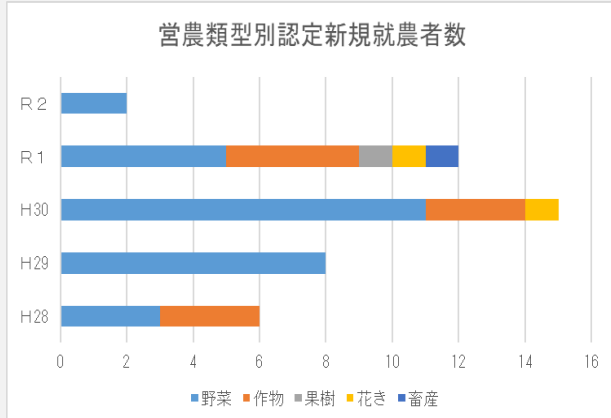


新規就農者の定着に向けた関係機関と連携した支援活動

県中農林事務所須賀川農業普及所

1. 背景・ねらい



- 市町村ごとに一定程度的新規就農者が確保されているものの、就農後のフォローアップの回数等、さまざまであり就農者の状況や課題の把握がまちまちであった。
- そのため、次代の担い手となる新規就農者の育成・定着が充分になされておらず、定着率の向上が課題である。

次代の担い手となる
新規就農者の育成・
定着



・新規就農者支援の
ための体制整備



・定着率の向上で
地域農業の担い
手に

2. 活動内容

(1) 農業担い手支援のための支援体制の整備 (R2~)

地域農業の担い手支援に関する共通の課題・認識を持つ場として、「農業担い手支援担当者会議」を開催

- ・農業次世代人材投資事業（経営開始型）を基に、市町村ごとのサポートチーム結成を提案
- ・就農後からフォローアップ巡回指導までのスケジュール、関係機関の役割を明確化

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
フォローアップ巡回指導			就農状況確認面談			フォローアップ巡回指導			就農状況確認面談		



(2) フォローアップ巡回指導の実施

・これまで、年2回の就農状況報告書に基づく面談のみであったが、青年等就農計画認定者等も含めて、プラス年2回の巡回指導を関係機関や専門班と実施し、品目に応じた栽培状況の把握・課題解決支援を行った。



新規就農者巡回支援の様子

(3) 巡回指導後の情報共有

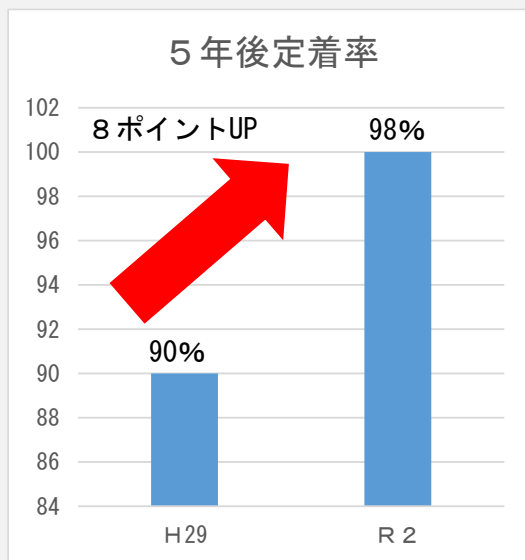
・巡回指導を行った後に、新規就農者の栽培状況・現状の課題等について関係機関で話し合いを行い、今後の支援について情報共有。
・新規就農者に対して、栽培技術だけでなく、農業経営管理の支援を行い、経営者としての自覚を持ってもらう。



関係機関での情報共有の様子

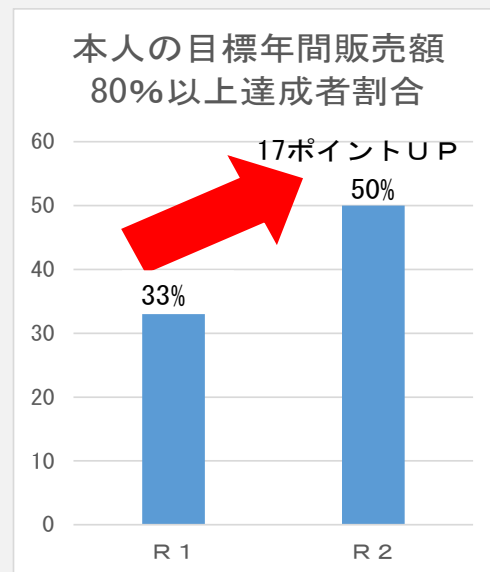
3. 活動成果

(1) 新規就農の定着率の増加



○巡回支援を行うことで栽培技術が向上し、農業所得も向上したことで定着率が増加し98%となった。

(2) 本人の目標年間販売額 80%以上達成者数の増加



○フォローアップ巡回指導の回数が増加したことで、栽培技術等が向上し新規就農者の年間販売額が増加した。

4. 今後の活動・方向性

- 関係機関との巡回指導回数を増やすことで、栽培状況・課題の把握を迅速に行う。
- 野菜班において、重点指導対象者として4名の新規就農者について、栽培技術から農業経営までの指導を行っており、普及所内で検討を行っている。今後、モデル経営体として就農希望者に提示できるよう支援を継続する。
- 今後、管内全市町村において、支援体制づくりを行い、担い手の確保・育成を行うとともに、新規就農者の定着を図る。